富山県美術館-TAD
Press Release

生活環境文化部　富山県美術館

担当：広報担当：川浦、新収蔵担当：渡辺
電話：076-431-2711

令和 8 年 3 月 24 日

【富山県美術館】令和 8 年度展覧会スケジュールおよび令和 7 年度新収蔵美術品について

富山県美術館にて、令和 8 年度に開催される展覧会のスケジュールをご案内します。
また、新たに取得した収蔵美術品をお知らせします。

令和 8 年度展覧会スケジュール

富山県美術館では、来る令和 8 年度の展覧会を別紙のスケジュールで開催します。
展覧会年間スケジュール（パンフレット）は、県内の主な文化施設や教育機関に配布します。
また、富山県美術館ホームページにも同様の内容を掲載します。
資料 1. 令和 8 年度展覧会スケジュール（PDF：2,345KB）

令和 7 年度取得の新収蔵美術品

令和 7 年度は、美術品の購入と受贈により 52 点の作品を取得しました。これらの作品は、コレクション展や、当館で開催する各種企画展で活用してまいります。
資料 2. 令和 7 年度取得の新収蔵美術品リスト（PDF：5,329KB）

富山県美術館
アート＆デザイン

スケジュール

4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月　11月　12月　1月　2月　3月

展示室1
- 第Ⅳ期 – 4/21
- コレクション展Ⅰ期 4/23 – 7/7
- コレクション展Ⅱ期 7/9 – 9/29
- コレクション展Ⅲ期 10/1 – 12/28
- コレクション展Ⅳ期 1/9 –

展示室2
- ハッチポッチ 藤枝リュウジの世界 –4/5
- コレクション展Ⅰ期 特別展示 生誕100年 金山康喜／前田常作 二つの個展 4/11~6/23
- テオ・ヤンセン展 7/4 – 9/23
- コレクション展Ⅲ期 新収蔵作品展 10/15~12/28
- シンシナティ美術館展 2027/1/23 – 4/11

展示室3
- 谷川俊太郎 絵本★百貨展 4/18 – 6/21
- つぐ minä perhonen 10/10 – 12/22

展示室4

展示室5
- 第Ⅳ期 – 4/7
- デザイン・コレクション展Ⅰ期 4/9 – 7/14
- デザイン・コレクション展Ⅱ期 7/16 – 9/23
- デザイン・コレクション展Ⅲ期 9/25 – 12/28
- デザイン・コレクション展Ⅳ期 1/9 –

展示室6
- 第Ⅳ期 – 4/7
- 瀧口修造コレクションⅠ期 4/9 – 7/14
- 瀧口修造コレクションⅡ期 7/16 – 9/23
- 瀧口修造コレクションⅢ期 9/25 – 12/28
- 瀧口修造コレクションⅣ期 1/9 –
- 第Ⅳ期 – 4/7
- シモン・ゴールドベルク＆山根美代子コレクションⅠ期 4/9 – 7/14
- シモン・ゴールドベルク＆山根美代子コレクションⅡ期 7/16 – 9/23
- シモン・ゴールドベルク＆山根美代子コレクションⅢ期 9/25 – 12/28
- シモン・ゴールドベルク＆山根美代子コレクションⅣ期 1/9 –

まるごとTAD こども美術館

企画展　コレクション展　※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

コレクション展

2階 展示室1

コレクション

約3か月に1度の展示替えで、自慢のコレクションを多彩に展示。常に新鮮な出会いが楽しめます。

生誕100年　金山康喜／前田常作　二つの個展

2026年度は、4/11～6/23の間、コレクション展を展示室2まで拡張し富山県にとって重要な2人の画家、金山康喜と前田常作の代表作を展示します。生誕100年の節目となるこの機会に、改めて両者の画業を振り返ります。

撮影：大辻清司《書斎の瀧口修造夫妻》1975年

3階 展示室5

デザイン・コレクション

ポスターと椅子を中心としたデザイン・コレクション。国内外のすぐれたポスターとともに、デザイン史に残る名作椅子が並びます。ポスターは、大型ディスプレイでも自由に楽しめます。

倉俣史朗《引き出しの家具》1967年
撮影：柳原良平　©Kuramata Design Office

3階 展示室6

瀧口修造コレクション
シモン・ゴールドベルク＆山根美代子コレクション

富山県出身の美術評論家・瀧口修造の部屋では、ミロやデュシャンなど親交を結んだ作家たちから贈られた作品などが並びます。また、富山を愛し晩年を過ごした天才ヴァイオリニスト、ゴールドベルクが生前に集めた20世紀の優品を展示します。

ルネ・マグリット《真実の井戸》1963年

パブロ・ピカソ《座る女》1960年
©2026-Succession Pablo Picasso – BCF(JAPAN)

※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

開館時間・休館日

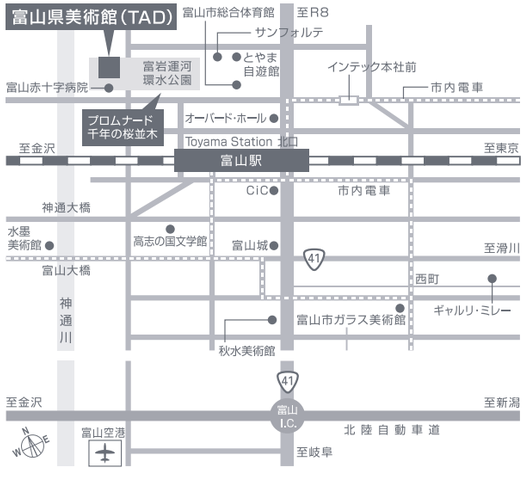
	利用時間	休館日	料金
美術館	9:30～18:00	・毎週水曜日（祝日除く） ・祝日の翌日 ・年末年始	・コレクション展： 6/30まで：一般300円（240円） 7/1から　：一般350円（280円） ※（　）内は20人以上の団体料金 ・企画展：展覧会により異なります。 ・企画展観覧料でコレクション展もご覧いただけます。
オノマトペの屋上	8:00～22:00	12月1日～3月15日	
駐車場	8:00～22:30		最初の1時間330円 以降30分毎に110円加算。 ※美術館利用の方、2時間無料 （事前精算機をご利用ください）

※メンテナンスや展示替え作業等のため臨時休館する場合があります。
※季節やイベント等に応じて、臨時開館や延長開館する場合があります。

- 次の方は、コレクション展・企画展ともに観覧無料
  1）児童、生徒（小・中学生、高校生など）
  2）学校教育、社会教育活動としての児童・生徒の引率者（観覧料免除申込書が必要です）
  3）各種手帳またはミライロIDをお持ちの障がい者の方の観覧
  （付き添いは手帳をお持ちの方1人につき1名まで無料）
- 大学生と70歳以上の方は、コレクション展が観覧無料
  （大学生の対象は、大学、大学院、短期大学、高等専門学校（4学年以上）、専修学校（専門課程）、専修学校（一般課程の19歳以上）、通信制大学、放送大学です）
- 詳しくは富山県美術館ホームページでご確認いただくか、美術館へお問い合わせください。
- ご来館の際は、当館ホームページの「入館時のお願い」をご確認ください。

アクセス

○富山駅北口（あいの風とやま鉄道改札側）から 徒歩約15分／タクシー約3分
　バス：1番のりばより乗車、「富山県美術館」下車すぐ
○富山空港より　タクシー約20分（約9km）
○北陸自動車道より　自動車 約15分（富山I.C.から国道41号経由）



富山県美術館（TAD）

TAD: Toyama Prefectural Museum of Art and Design
※Toyama Art Designの頭文字をとり、TADと略称しています。

〒930-0806 富山県富山市木場町3-20（富岩運河環水公園内）
TEL：076-431-2711　FAX：076-431-2712　https://tad-toyama.jp/

2026 → 2027

Toyama Prefectural
Museum of Art & Design

富山県美術館（TAD）

展覧会スケジュール

2026.4 – 2027.3

富山新聞復刊80年記念

谷川俊太郎　絵本★百貨展

4月18日（土）ー6月21日（日）

一般：¥1,100（¥850）
大学生：¥550（¥420）
一般前売り：¥850
※( )内は20名以上の団体料金

2024年11月、92歳で亡くなった詩人の谷川俊太郎は1960年代以降、さまざまな絵描きや写真家と200冊にも及ぶ絵本を作ってきました。ことばあそび、世界のありようを認識する手がかり、ナンセンスの楽しみ。そして生きることの面白さや大変さ、尊さ、死や戦争までをテーマに、絵と言葉による表現に挑んでいます。バラエティ豊かな絵本に共通するのは、読み手に対する谷川俊太郎の希望の眼差しです。
展覧会では約20冊の絵本を取り上げ、原画のみならず、アートディレクター、映像作家、建築家といった多彩なクリエイターたちによる絵や言葉が動き出す映像、朗読や音、インスタレーション作品などを展示します。会場内には、谷川作の100を超える絵本を自由に閲覧できるコーナーも。また、富山会場独自のミニ企画展示として、谷川俊太郎と富山の縁の一端をご紹介します。
「百貨店」のように様々なコンテンツで表現された、谷川俊太郎の絵本の世界をお楽しみください。

左上：『もこ もこもこ』（絵・元永定正）文研出版 1977
左下：『かないくん』（絵・松本大洋）ほぼ日 2014
右：東京会場 展示風景（撮影：高橋マナミ）

テオ・ヤンセン展

7月4日（土）ー9月23日（水・祝）

一般：¥1,600（¥1,400）
大学生：¥1,100（¥900）
一般前売り：¥1,400
※( )内は20名以上の団体料金

オランダの造形作家、テオ・ヤンセン（1948–）は、オランダの海面上昇問題を解決できないかという発想をもとに、風を動力源として砂浜を歩く「ストランドビースト」※を生み出しました。
プラスチックのチューブを骨格とするストランドビーストは、生き物のように進化を遂げ、歩行するだけでなく方向転換などの機能を備えるなど、様々な環境に適応するべく進化を続けています。大学で物理工学を学んだヤンセンが生み出したビーストの動きは滑らかで、まるで生きもののようです。
本展では、芸術と科学を融合させ、「現代のレオナルド・ダ・ヴィンチ」とも称されるヤンセンが生み出した様々な形態のビーストと、その発想の過程やビーストの進化を、映像、スケッチ、パーツなどの資料とともに紹介。さらに会期中には、ストランドビーストが実際に動く様子をご覧いただける「リ・アニメーション」を行います。ヤンセンが創造した、ビーストたちが躍動する多様な世界をお楽しみください。

※ストランドビースト（Strandbeest）＝
オランダ語のstrand（砂浜）とbeest（生き物）を合わせたヤンセンによる造語。

アニマリス・ブラウデンス・ヴェーラ 2013年　©Media Force

つぐ minä perhonen

10月10日（土）ー12月22日（火）

一般：¥1,500（¥1,150）
大学生：¥750（¥570）
一般前売り：¥1,150
※( )内は20名以上の団体料金

ミナ ペルホネンは、デザイナーの皆川明（1967–）が1995年に創設した「minä（ミナ）」を前身とするファッション・テキスタイルのブランドであり、2025年に創立30周年を迎えました。
流行に左右されず、長年着用できる普遍的な価値を持つ「特別な日常服」をテーマとし、熟練の技術者でもある職人たちとの対話と試行錯誤を重ねながら、オリジナルの生地から製品を生み出すという、独自の物づくりを続けています。「せめて100年続くブランド」という思いでファッションから始まったミナ ペルホネンの活動は、インテリアをはじめ食や宿など、私たちの生活全般へと広がっています。
展覧会のタイトルとなっている“つぐ”という言葉には、水面に起こる波紋のようなイメージが託されています。生地の生産地をはじめとする物づくりの世界や、人々の暮らしとの関係は、まるでミナ ペルホネンの活動という雫が、共鳴する人々を繋ぎ、手技を生み、新たなクリエイションへとその波紋を広げているようです。
本展は、全国巡回の企画展です。洋服やプロダクトのほか、オリジナルのテキスタイルや原画などを通してミナ ペルホネンの仕事や思想に触れる会場。そこに身を置くことで、観る人それぞれが様々な“つぐ”を発見する機会となるでしょう。

"sea sky" 2025-26~a/w　Photo: Keita Goto(W)

富山県美術館開館10周年記念

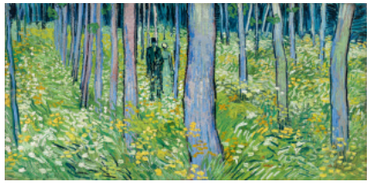
シンシナティ美術館展

～アメリカに渡ったヨーロッパの至宝～

2027年1月23日（土）ー4月11日（日）

一般：¥2,000（¥1,800）
大学生：¥1,400（¥1,200）
一般前売り：¥1,800
※( )内は20名以上の団体料金

シンシナティ美術館（アメリカ合衆国オハイオ州）は、創立1881年、米国で最も歴史ある美術館の一つで、73,000点以上の膨大で多彩なコレクションを有しています。
本展では、セザンヌやモネ、ゴッホ、ピカソなど、19–20世紀のフランス美術を中心に、同館の誇る珠玉の名品84点をご紹介します。この時代、西洋美術の中心地は、パリでした。アメリカの芸術愛好家やコレクターも時代を先導するパリの芸術に魅せられ、その収集活動によって数多の作品が海を越えてアメリカへと渡りました。ゴッホが死の直前に手がけた作品の一つ《ポプラ林の中の二人》や、当時ヨーロッパで流行していた日本趣味を反映するティソの《日本の美術品を眺める若い女性》、抜けるような青空の下のセーヌ川を描いたシスレーの《ブージヴァル》など、ルーヴルやオルセー美術館所蔵の昔から日本でも紹介されてきた作品群とはまた異なる、巨匠たちの知られざる絵画や彫刻が、遠く離れたアメリカ中西部から富山にやってきます。
このうち81点が初来日。本展では、美術史に名を残す芸術家たちの貴重な傑作を展示し、近代美術を巡る旅へと皆様をご案内します。



上：フィンセント・ファン・ゴッホ《ポプラ林の中の二人》1890年
下：ポール・セザンヌ《レモンのある青い静物》1875年頃

令和７年度新収蔵美術品について

令和７年度は、美術品の購入と受贈により 52 点の作品を取得しました。これらの作品は、コレクション展や、当館で開催する各種企画展などで活用してまいります。

１．美術品の購入（４点）

No.	作家名	生没年	作品名
1	風間（かざま） サチコ	1972-	ツァウバーベルク
2	冨井（とみい） 大裕（もとひろ）	1973-	ゴールドフィンガー
3	〃	〃	今日の彫刻（110908-160908）
4	藤井（ふじい） 光（ひかる）	1980-	日本の戦争美術 1946

上記作品は、富山県内在住の個人の方からのご寄附を活用し購入しました。寄附者のご意向を踏まえて、日本の若手・中堅作家（30 代～50 代）の作品を購入したものです。

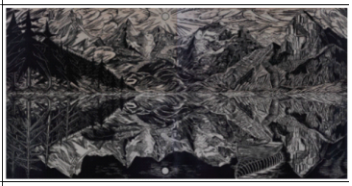
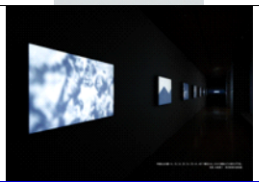
２．美術品の受贈（８件、48 点）

No.	作家名	生没年	作品名	寄附者
1～6	浅岡（あさおか） 慶子（けいこ） （代尾飛（しろおひゅう） 含む）	1945-	Panel number 0011 ほか	浅岡（あさおか） 慶子（けいこ） 氏
7～11	岡崎（おかざき） 和郎（かずお）	1930－2022	HISASHI ほか	岡崎（おかざき） 厚子（あつこ） 氏
12～31	金守（かなもり） 世士夫（よしお）	1922－2016	版絵菩薩曼荼羅 ほか	金守（かなもり） 嘉子（よしこ） 氏
32	五島（ごとう） 健三（けんぞ）	1886－1946	大井冷光肖像画	大井（おおい） 義博（よしひろ） 氏
33	サム・フランシス	1923－1994	無題	尾山（おやま） 景子（けいこ） 氏
34	頭川（ずかわ） 政始（まさし）	1933－1993	誕生の詩・（夕縞）	川邉（かわべ） 一彦（かずひこ） 氏
35～39	久泉（ひさいずみ） 共三（きょうぞう） 久泉（ひさいずみ） すま	1899－1993 1903－2001	［題不詳］ ほか	久泉（ひさいずみ） 鶴雄（つるお） 氏
40～48	鏑木（かぶらぎ） 昌弥（まさや）、 ほか５名	1938-	迷路 ほか	アートギャラリー環（かん） 川妻（かわつま） さち子氏

※各作品の詳細は、別紙のとおり

（別紙）

（１） 美術品の購入

No.	作家名	作品名	制作年	技法	サイズ（cm）	参考図版
1	風間サチコ	ツァウバーベルク	2021年	木版画（パネル、和紙・油性インク）	183×364	
2	冨井大裕	ゴールドフィンガー	2007年	画鋲27225本（縦165列、横165列）※可変。指示書	H181.5×W181.5×D0.1	
3	冨井大裕	今日の彫刻（110908-160908）	2011年	スライド画像・モニター	スライド:1612 枚（26：52）、モニター:9.8 × 12 × 4	
4	藤井光	日本の戦争美術 1946	2022年	ビデオ・インスタレーション	映像、音声	

１．風間サチコ

作家は、近年高い評価を受けており、ニューヨーク近代美術館はじめ国内外で作品が収蔵されている。取得作品は、生と死をテーマにしたトーマス・マンの小説『魔の山』（独題：ツァウバーベルク）から主題を得ており、作品上部には山岳写真を、下部には湖面に写されたような鏡像が表されている。コロナ禍を背景に時代への批評性を持つ作品として高く評価できる。また、大型作品でもあり、版画作品だが１点ものである点でも希少性が高い。

２．冨井大裕

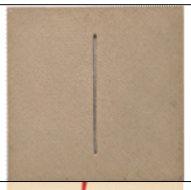
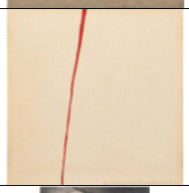
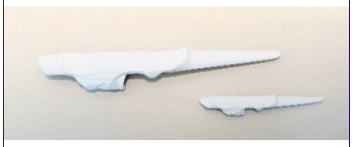
作家は、クリップや鉛筆、ハンマーなど日常的な既製品を用いて、それらを並べる、重ねる、束ねるといった単純な操作により、新たな彫刻の様態を探求し注目されてきた。
取得作品《ゴールドフィンガー》は、作家の代表作で東京国立近代美術館ほかにも既に収蔵されている。《今日の彫刻（110908-160908）》は、日常風景の中に作者が見つけた「彫刻」的なものを集めたスライドを集成したもので、２点合わせ展示することで作家の世界観をよく示すもの。

３．藤井　光

作家は綿密なリサーチによる社会的な映像インスタレーション作品で高く評価され、東京国立近代美術館をはじめ国内外の多数の美術館に作品が収蔵されている。

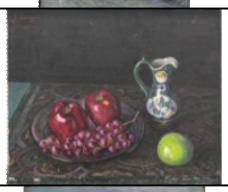
取得作品は、戦後米国に接収され、後に永久貸与という形で返還されて東京国立近代美術館に収蔵されている日本の戦争画をテーマとする。戦後 80 年を期に各地の公立美術館が同シリーズの作品を収蔵している。

（２） 美術品の受贈

No.	作家名	作品名	制作年	技法	サイズ（cm）	参考図版
1	代尾飛（浅岡慶子）	Panel number 0011	1970年	ガラス・キャンバス地・パネル	45.0×45.0	
2	代尾飛（浅岡慶子）	赤い線	1970年	紙、パラフィン、顔料	45.0×45.0	
3	浅岡慶子	珠　Thinking of ALAYA	1992年	紙、水彩	26.0×16.0	
4	浅岡慶子	珠	2005年	紙、ミクストメディア	27.0×20.0	
5	浅岡慶子	珠	2005年	紙、ミクストメディア	30.0×22.0	
6	浅岡慶子	［瀧口修造、綾子肖像］	2006年	紙、鉛筆	57.0×42.0	
7	岡崎和郎	HISASHI	1983年	ブロンズ	H3.8×W64.0×D12.5	
8	岡崎和郎	HISASHI	2002年	アクリル樹脂・彩色、金属	大：H4.5×W59.6×D 10.0、小：H3.0×W30.0×D5.0（2点1組）	
9	岡崎和郎	（無題）	2015年	造花、ガラス、石膏	H36.5×W10 ×D12	
10	岡崎和郎	画中画	2004年	石膏、彩色	H27.5×W22.3×D2.2	

11	岡崎和郎	画中画	2021年	キャンバス・絵葉書、ペン	H16.2×W22.8×D3.5 （2点1組）	
12	金守世士夫	版絵菩薩曼荼羅	1947年	木版画	16.0×144.0	
13	金守世士夫	物語　エリコの街探る二兵士	C.1952年	木版画	56.4×74.2	
14	金守世士夫	サタン転落	1958年	木版画	37.4×52.8	
15	金守世士夫	逃れの街／神話逃れの街の章	1958年	木版画	50.7×68.8	
16	金守世士夫	ノアの方舟	1959年	木版画	49.0×65.0	
17	金守世士夫	鳥いる湖山<B>	1965年	木版画	72.0×57.3	
18	金守世士夫	湖山<時天使>	C1976年	木版画	99.0×69.5	
19	金守世士夫	湖山<風車・蝶>、湖山（蝶・幻華）	1978年	木版画	98.8×69.0	
20	金守世士夫	湖山<陽炎・紅玄鳥>	1984年	木版画	72.2×57.4	
21	金守世士夫	葦草の捨児	制作年不詳	木版画	40.5×57.4	

22	金守世士夫	サタン転落	制作年不詳	木版画	54.8×69.6	
23	金守世士夫	燃える芝	制作年不詳	木版画	53.5×69.5	
24	金守世士夫	[出エジプト]	制作年不詳	木版画	40.4×50.1	
25	金守世士夫	題不詳	制作年不詳	木版画	30.3×45.5	
26	金守世士夫	羽根とぶ湖山 No.2	制作年不詳	木版画	69.5×48.8	
27	金守世士夫	題不詳	制作年不詳	木版画	72.8×57.0	
28	金守世士夫	空蝶の湖山<青>	制作年不詳	木版画	68.3×49.2	
29	金守世士夫	舞蝶（A）	制作年不詳	木版画	61.5×49.7	
30	金守世士夫	湖山<羽月>青	制作年不詳	木版画	69.5×49.2	
31	金守世士夫	湖山<華・蝶>	制作年不詳	木版画	102.9×69.0	
32	五島健三	大井冷光肖像画	1912	キャンバス・油絵具	45.2×33.5	

33	サム・フランシス	無題	1985	銅版画	22.5×19.1	
34	頭川政始	誕生の詩・（夕縞）	1976	紙・鉛筆	13.8×14.5	
35	久泉共三	［題不詳］	制作年不詳	キャンバス・油絵具	62.8×70.3	
36	久泉共三	渓（未完成）	1990年	キャンバス・油絵具	57.7×48.4	
37	久泉共三	黒部峡谷	制作年不詳	キャンバス・油絵具	57.7×48.4	
38	久泉すま	リンゴとブドウと中口の緑の壷	制作年不詳	油彩、キャンバス	45.4×53.0	
39	久泉すま	花	1931年	油彩、キャンバス	43.6×43.7	
40	鏑木昌弥	迷路	1977	キャンバス・油絵具	27.4×40.8	
41	鏑木昌弥	あのセトモノはどこ	1978	キャンバス・油絵具	65.2×50.0	
42	藤山ハン	人形の肖像	1965	キャンバス・油絵具	53.0×45.5	
43	藤山ハン	人形の肖像	1967	キャンバス・油絵具	53.0×41.0	

44	**藤山ハン**	**霊的オブジェのある風景**	**1968**	キャンバス・油絵具	31.8×41.0	
45	**高山良策**	**東宝争議・青婦人会議**	**1947**	キャンバス・油絵具	40.9×53.0	
46	**中村宏**	**望遠鏡列車**	**1974**	紙・リトグラフ	37.4×46.5	
47	**尾藤豊**	**館と女人シリーズ**	**1981**	紙・インク、透明水彩絵具	27.2×41.5	
48	**桂川寛**	**水の中の風景**	**1966**	キャンバス・油絵具	45.5×33.3	

１．浅岡慶子（アーティストネーム・代尾飛）（1945－）

宮崎県生まれ。武蔵野美術大学で油絵を学び、美術出版社に一時勤務しつつ作品を制作。1971 年ピナール画廊（東京）で個展を開催後、1972 年に渡米しニューヨーク大学で美術史などを専攻、作品を制作する。1983 年に帰国後は個展を中心に作品を発表。1970 年代以降、コンセプチュアルな作品を制作し続けている芸術家である。

瀧口修造との縁も深く、当館では瀧口の旧蔵品「瀧口コレクション」として初期の２作品を既に所蔵している。今回作家より寄附申出のあった作品は、その後、現在に至るまでの作家の活動を辿ることが出来るもので、「瀧口コレクション」と合わせた展示のほか、戦後美術の中の女性芸術家の表現としても展示活用が期待できる。

２．岡崎和郎（1930－2022）

岡山県生まれ。早稲田大学在学中に瀧口修造やダダやシュルレアリスムに触れ、鉄の彫刻の制作を始める。読売アンデパンダン展や、瀧口修造の紹介で東京画廊で個展を開催したのを皮切りに展覧会多数。

岡崎和郎はオブジェを数多く制作し、戦後の日本美術史の中で独自の着想と方法で評価を確立した作家。瀧口との縁も深く、当館では既に作品 21 点（うち瀧口の旧蔵品「瀧口コレクション」20 点）を所蔵するが、今回ご遺族から寄附申出のあった作品は、いずれも作家の代表的なシリーズであり、当館の作品と合わせ作家の長い作歴を概観することが期待できる。

３．金守世士夫（1922－2016）
富山県射水郡伏木町（現・高岡市）生まれで、富山県を代表する木版画家。戦中戦後の一時期、本県に疎開していた棟方志功の薫陶を受けたことで知られる。国画会等で活躍。刀根山光人、深澤幸雄らと版画芸術院を創立した。富山県文化功労章受章。
当館ではこれまで収蔵する機会がなく、今回、作家ご遺族の申出により、作家の生涯にわたる代表作を厳選し受け入れる。

４．五島健三（1886－1946）
富山県福野町（現・南砺市）生まれ。富山県立農学校（現・富山県立南砺福野高等学校）を卒業後、上京し、1907 年に東京美術学校に入学。岡田三郎助に師事。第 1 回文展（県下初）、白馬会展に入選。鹿児島師範学校（現・鹿児島大学）に赴任し長く教鞭をとった。
五島健三は、本県の近代の洋画史上、重要な作家。本作は、五島の親友で童話作家の大井冷光（富山県出身）の肖像画であり、二人の交友を語る上でも貴重。大井冷光ご遺族からの申出による寄附で、本県の近代洋画史を振り返る展覧会などでの活用が期待される。

５．サム・フランシス（1923－1994）
アメリカ、カリフォルニア州生まれ、同地で没。戦後フランスのアンフォルメル（不定形絵画）とアメリカの抽象表現主義の二つの抽象絵画の流れを汲みつつ独自の作風を確立し、ニューヨーク近代美術館ほか世界の主要美術館に作品が収蔵されている。
戦後、1950 年代に来日し、瀧口修造や東野芳明ほかと親しく交遊。富山県立近代美術館に 1986 年に来館し、同館で２度（1988 年、2002 年）個展を開催した。
寄贈者は、富山県における瀧口修造研究会の主催者。本作は、旧近代美術館でのサム・フランシス展（1988 年）開催時に入手されたもの。当館の既収蔵のサム・フランシス作品とともに活用が期待される。

６．頭川政始（1933－1993）
富山県高岡市生まれ、同地で没。高岡市塗装指導所普通科修了、金沢美術工芸大学デザイン科卒業。頭川は、戦後富山の前衛的な表現における代表的作家のひとりで、鉛筆による細密表現により独自の幻想的な世界を展開した。本作は頭川と交流のあった、本県の洋画家・川辺外治（1901 - 1983）の旧蔵品で、川辺ご遺族より寄附の申出があった。当館では頭川作品をすでにまとまった数所蔵しているが、戦後の富山の作家間の交流を示す作品として活用が期待できる。

７．久泉共三（1899－1993）、久泉すま（安藤すま／1903－2001）
久泉共三は、高岡市出身で洋画家・中川一政に師事し春陽会で活躍。帰郷後は「富山県洋画協会」「富山県美術文化協会」などの結成に関わり、本県の洋画運動を牽引した。
久泉すま（旧姓・安藤）は、洋画家・山本鼎に師事し春陽会に参加、2 度入選を果たすも、結婚後は共三の画業を支えた。当館では二作家ともまだ収蔵がなく、今回ご遺族からの寄附申出を受け、本県の洋画史を辿る上で貴重な作品を取得した。

８．鏑木昌弥他、５名
寄附者の川妻さち子氏は、昭和 50 年代初頭より東京で画廊「アートギャラリー環」を主宰し、長年にわたり日本の戦後の前衛美術を多く扱い自身もコレクションしてきた。近年、高齢のためそのコレクションを順次美術館に寄附しており、練馬区立美術館や福島県立美術館、茨城県近代美術館など国内の主要美術館で収蔵されている。
今回、鏑木昌弥や藤山ハン、高山良策ら６人の作家の絵画及び版画９点の作品を受贈する

もの。批評等を通じ前衛美術を支援した瀧口修造との縁もあり、展示活用が期待できる。

・鏑木昌弥（1938－）
　東京都生まれ。多摩美術大学を卒業後、「前衛美術展」、のちに「齣展」を中心に作品を発表。NHK の人形劇のセットや演劇公演の美術デザインなども手掛けた。

・藤山ハン（1941－）
　鹿児島県生まれ。独学で絵を学び、特定の美術運動や表現に属することなく独自の画境を開拓してきた。鹿児島市立美術館や平塚市美術館などで作品が収蔵されており、当館でも瀧口修造コレクションとして 2 点収蔵しているが、代表的な〈人形シリーズ〉はなく、今回受贈するもの。

・高山良策（1917－1982）
　山梨県生まれ。上京し独学で絵を学ぶ。戦後、山下菊二らと前衛美術会を結成。同会や日本アンデパンダン展、齣展などを中心に作品を発表した。本作は戦後のルポルタージュ絵画の重要作である。尚、1965 年以降、画業と並行し円谷プロでウルトラマンなどの怪獣制作の仕事に携わったことでも知られる。

以上